

3. 気候

庄川流域は年較差の大きい日本海型気候に属する、多雨多雪地帯であり、特に流域上流部は有数の豪雪地帯であり、年間降水量は流域上流部の白川村御母衣観測所では約 3,200 mm となっています。また、流域下流の平野部に向かって少なくなり、平野部の高岡市伏木観測所で約 2,300mm であります。

年平均気温は流域上流部の高山市^{むまゐ}六厩では 7.0℃と低く、流域下流部の高岡市伏木観測所では 13.7℃です。積雪については、流域上流の山岳部では 2m を越え、流域下流の平野部でも 0.5~1m に達し、流域上流部の五箇山地方では、雪が消えるのは5月下旬です。

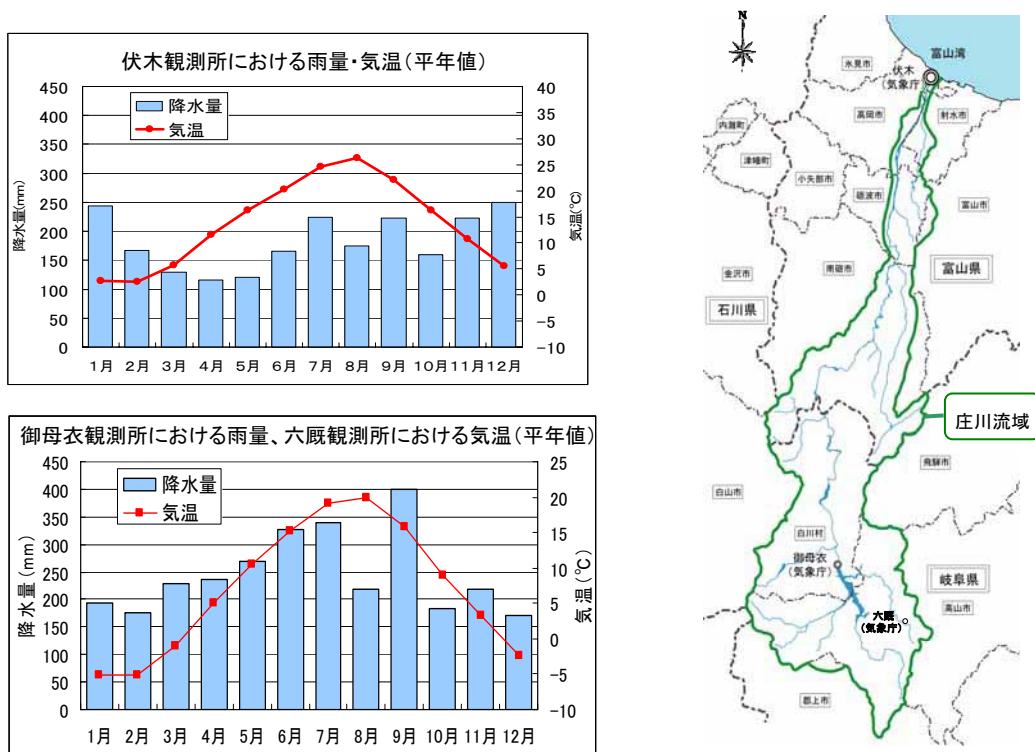


図 2-5 伏木観測所（平野部）と御母衣観測所（山地部）の月平均降水量と月平均気温

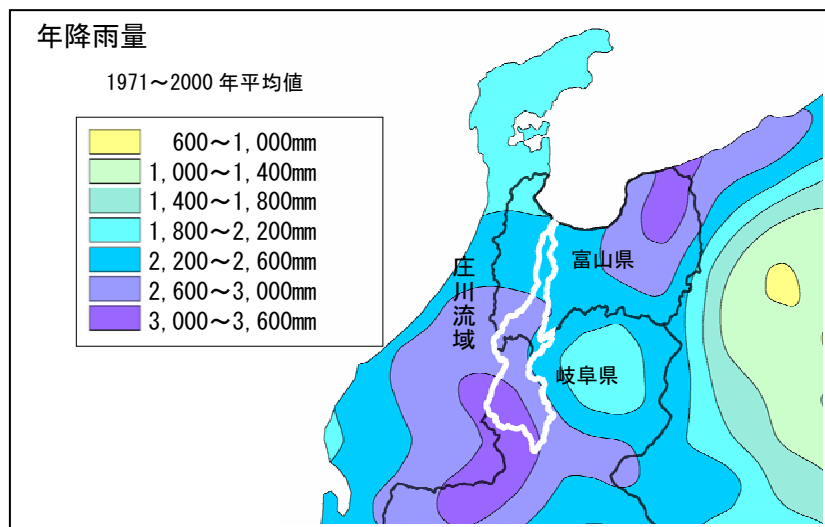


図 2-6 庄川流域の年平均降水量分布図

4. 自然環境

庄川の自然環境は、その特性により流域の上流部、中流部、下流部、湧水部の4区分に分することができます。

(流域上流部)

源流から御母衣ダムまでの流域上流部は、ブナ・ナラ等の自然林が広い面積を占めており、白山国立公園内を初めとする高層湿原ではミズバショウ、ザゼンソウ、ワタスゲなどが生育しています。また、支川沿いには発達した渓谷林が見られます。

(流域中流部)

御母衣ダムから庄川用水合口ダムまでの流域中流部は、庄川峡をはじめとする深い峡谷が連続しており、コナラ群落やブナ・ミズナラ等の原生林が広がる四季折々の彩りを映して流れる景勝空間であるとともに、発電等のためのダム湖などの湛水区間が連続しています。

(流域下流部)

庄川用水合口ダムから河口までの流域下流部は、水質も良く、清澄な水に依存するアユやイチモンジタナゴ等の多くの魚類が生息しています。庄川用水合口ダムより雄神橋までの天然河岸にはサイカチ等が生い茂り、露岩や転石の間にはツメレンゲ等が見られます。また、雄神橋より大門大橋付近までは、流路が網状に流下して広い砂礫の河原が形成されています。この付近では、砂礫河原に依存するカワラサイコ等の群落やコチドリ等の鳥類が見られ、アユやアカザ等の魚類が生息しています。大門大橋付近から河口までは高水敷と低水路とが明確に区別でき、高水敷ではチガヤ群落、水際にはヨシ群落が発達し、中州に茂る中低木群はサギ等の鳥類の集団営巣地となり、緩やかで泥質な水域にはナマズやシンジコハゼ等の魚類が生息しています。

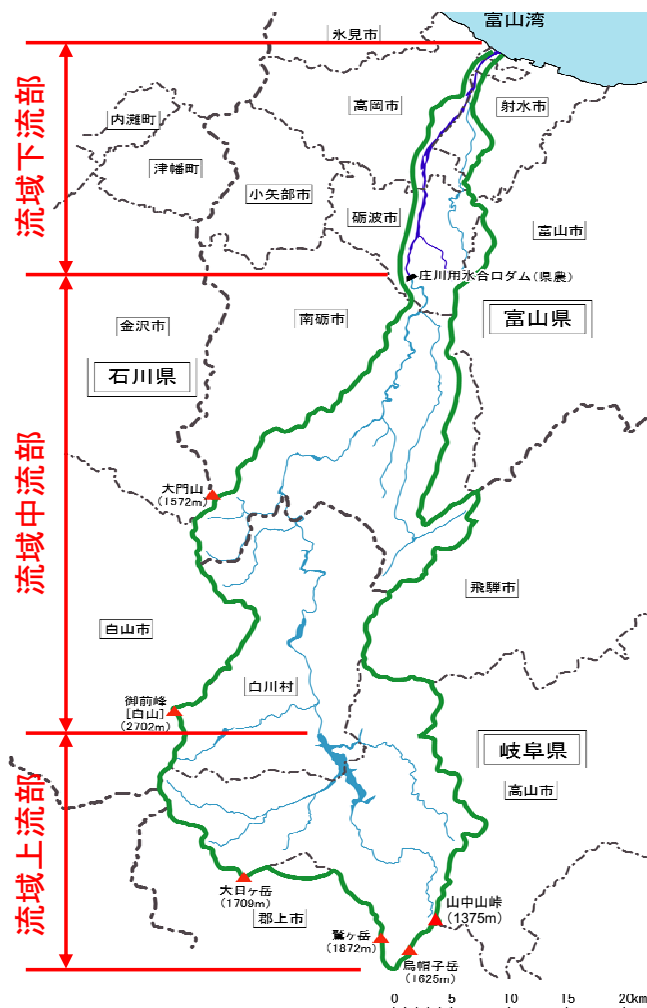


図 2-7 流域の区分

(湧水部)

河道内の湧水箇所周辺では、湧水に起因する池やタマリが形成され、イチモンジタナゴ(環境省レッドリスト:絶滅危惧種 I B類) やトミヨ等の魚類や、ミクリ等の抽水植物が生育しています。



図 2-8 ワタスゲ (流域上流部)



図 2-9 庄川峡のブナ・ミズナラ群落 (流域中流部)



図 2-10 アユ (流域下流部)



図 2-11 イチモンジタナゴ (湧水部)